

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600068		
法人名	株式会社 さくらケアサービス		
事業所名	グループホーム「あいりレー池田」(さくら棟)		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町藤代698-1		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 9 日	評価結果市町村受理日	令和 7 年 1 月 29 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192600068-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和6年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人ひとりを「自分の家族であればこうしたい」を大切に、緑ある自然豊かな中でゆったりと安心して生活できるように支援しています。コロナ禍以降、いろいろな制限はありましたが、広々とした中庭や施設周辺の散歩にて四季を感じながら過ごしていただいています。これからも楽しみを持ちながら日々を穏やかに過ごしていけるよう、職員とご本人様が共に考え、実行していく。そんな生活をしていく場が「あいりレー」でありたいと思っています。生涯において一番大切な時間を共に過ごせる事に喜びを感じながら職員一同暖かい気持ちで日々の生活のお手伝いをさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは霞間ヶ溪の名所に近く、春の桜や秋の紅葉、茶畑等の田園が広がる自然に恵まれた環境に位置しており、ホームからは池田山や地域の街並みも眺望できる。野菜の栽培や散歩ができる広い中庭を有し、コロナ禍の影響が続く中であっても、外出気分を楽しんだり、畑で植物や野菜を育てたり、お茶会等レクリエーションをする等、気分転換ができています。建物は平屋建てで、天井が高く、リビングも居室も明るい。室内は清掃が行き届き、感染症対策に力を入れている。ホームでは、利用者のエンパワメント向上の観点から、「自分の家族であればこうしたい」という理念を大切に支援に努めており、利用者のできることに焦点をあてて、洗濯干し、洗濯たたみや台拭き等、様々な役割を担ってもらえるよう支援している。また、楽しみづくりとして、嚥下体操や習字、作品づくり、プランター栽培、ケーキの提供、外食をテイクアウトする等、利用者や対話をしながら楽しみの時間を提供し、利用者のQOLを高めた生活を支援している。さらに、職員のワークライフバランスに配慮した就業環境を整備するとともに、研修体制の強化を通じて、職員の定着率を高め、ひいては、職員エンゲージメント向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)		1. ほぼ全ての利用者が	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1人ひとりを「自分の家族であればこうしたい」を大切に、利用者の家族とおなじような介護を提供できるよう意識しながら取り組んでいる。	「自分の家族であればこうしたい」という理念を玄関に掲示し、職員全体で意識化を図っている。利用者が対応が困難な状況にある場合でも、自分の家族ならどう接するのかについて職員間で話し合って支援している。「職場の教養」を毎朝職員が交代で読み上げ、職員間で共通理解を深め、ケア実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方々に毎月の行事として参加して頂き、地元の方との交流を図っていたが、コロナウイルス感染流行以後、中止している。	コロナ禍の影響が続き、地域のボランティアの受け入れを自粛をしている。同様に地域の祭り等の行事参加を自粛していたが、今年度から少しずつ参加し始めている。	今後、コロナ感染症対策を継続しつつ、以前からの地域との関係を再構築し、可能な行事から徐々に参加する等、地域住民との交流の拡充に向けた取り組みに期待したい。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	あいりレーだよりで毎月の行事予定を報告。サービス内容については、意見をいただき話し合いを通じて反映できるよう取り組んでいます。コロナウイルス流行以後、郵送にて報告している。	コロナ感染症対策のため、運営推進会議については、委員に運営状況の資料を送付し、書面開催をしている。また、「あいりレーだより」を毎月発行し、地域の委員に配布し、意見等は口頭で聞き取りをしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば、必要に応じて、町や県、広域連合に相談し情報交換をしている。協力もして頂いている。	主に代表者が担当窓口となり、広域連合や町担当者、地域包括支援センター、社会福祉協議会等と連携を図り、感染症についての情報交換や入居受入れの相談等を通じて、日常的に顔の見える関係性を築いている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルの作成や権利擁護推進委員の研修を受講をしたりしてカンファレンスなどで職員への研修も行っている。	現在、身体拘束は行っていない。センサーマットについても、毎月のカンファレンスで、その必要性について検討をしている。また、カンファレンスの中で研修も行っており、何が身体拘束にあたるのかについてや、自分たちの言葉遣いや対応方法等が該当していないか等について話し合い、理解を深めている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成しカンファレンスなどで職員への研修を行っている。	カンファレンスの中で、外部研修等の資料を活用しながら研修を実施したり、資料の回覧を行う等して虐待防止に向けた取り組みを行っている。管理者は普段から現場に身を置き、職員の立場も理解しつつ、言葉遣いに注意を払い、必要な時に、職員に説明することで、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加して内容は把握している。入居者の方で必要な方には活用してもらっている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、ご家族やご本人様とサービス内容や料金、解約方法等の十分な説明を行い、理解納得の上、署名捺印を頂いている。解約時には必要に応じて面談を行う。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内にご意見箱を設け、意見を頂き反映できるように配慮している。運営推進委員会で地域やご家族様の意見を出して頂き運営に反映させていたが、現在はコロナ禍で来訪者を中止している。	毎月の便り送付時に意見を伺うことが多い。例えば、入浴拒否するが家族は入浴させてほしい、認知症予防のために計算ドリルを取り入れてほしい等、様々な意見をいただいている。意見は、すぐに職員間で共有し、意向に合わせて支援方法を見直している。すぐに解決できないことも代表者に相談し、毎月会議で話し合い、改善に努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個々に面談やカンファレンス、職員会議を行い、勤務状況・意見・改善点等を聞く機会を設けている。	定期的に、職員会議やカンファレンスを実施し、その中で、管理者は職員の意見を聞き、ホームの運営に反映させている。例えば、おむつ交換の時間が排泄状況と合わないという意見には、支援時間の見直しを行ったり、シャワーキャリー等の備品の希望については速やかに購入する等の対応をしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	実績や勤務状況により給料水準も再検討し、各自の得意な部分を活かし、意欲的に働けるように努めている。資格取得にも勤務内でできるように協力している。	毎月、職員の勤務希望を聞き取り、希望に応じて勤務表を作成している。また、有給休暇の積極的な取得に努めたり、健康面や家庭の事情に合わせて働けるよう、職員個々のワークライフバランスに配慮した就業環境の整備に取り組んでいる。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修に参加(リモート)し、研修内容等で必要な事は発表を行い、介護の現場に反映させている。他の法人の施設研修も取り入れた事がある。	無資格・未経験であっても入職後、現場のOJT指導体制ができており、また、働きながら資格取得できるように研修受講費の補助もある。職員が地域のケア会議において定期的に事例発表する機会を設け、他事業所と情報交換をしたり、事例発表を通じて、学びを深めたりしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の法人の施設を訪問する機会を設けたり、施設内での工夫を話し合う場を設けている。各研修への参加、地域ケア会議の出席により、情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護の基本姿勢として接しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の状態を把握し、状況に応じて対応を検討している。朝礼、申し送り、引継ぎ等で話し合い、素早く対応できるように心掛けている。	利用者の思いや意向の把握については、入居前の聞き取り調査時に確認するとともに、入居後は、日々のケアのかかわりの中で把握に努めている。また、本人の訴えや言動を日誌や生活記録、ノートに記載しながら、職員間で共通理解に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成時、職員、ご家族様、本人様から意見を聞き、「今、出来る事は何か」を考え、安心して生活して頂けるような介護計画を作成している。	担当職員が中心となって、利用者・家族の意向を踏まえ、往診や看護記録の内容を織り込んで、職員間で話し合い、ニーズに即した介護計画を作成している。定期的にモニタリングを実施し、計画の見直しを行うとともに、状況変化等、必要な場合には随時見直しをしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録簿に記入し、皆で共有している。日常生活の中で介護計画に反映していける部分は見直しを行っている。	利用者の様子や職員の気づきを記録に記載し、日々の申し送りにより情報共有を行っている。また、利用者の心身状況の変化に合わせて計画を見直し、実践に反映させている。例えば、医療的依存度が高くなった利用者について入浴方法の工夫や福祉用具の活用を検討し、計画の修正を行ったとの事である。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍、外出を中止している。その分、利用者様の要望を取り入れながら、中庭の散歩や園芸などで外に出る機会を多くし、個々の楽しみを見出している。	本人の意向を汲み入れ、利用者の家族の状況に応じ、臨機応変に対応をしている。医療機関の受診の付き添い、買い物支援等は、家族と相談しながら職員が代わって行う事もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力による行事を企画、手芸・華道・書道クラブ等も計画し、日常生活に楽しみを持てるよう支援しているが、現在コロナ禍でボラの来訪を中止している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご本人様の意見を尊重し、主治医は限定しておらず、各自のかかりつけ医、ご家族様、事務所との連携を持ちながら支援している。	利用者ごとにかかりつけ医の往診があり、診療を受けている。また、複数の関係医療機関との連携ができている。診療情報はサマリーや経過記録で管理し、申し送りを通じて職員間で共有している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院側に施設での健康状態等の情報提供をスムーズに行う。また、入院後は状態把握のために定期的に面会に伺い、退院までの状態を把握しておく。退院時には病院側とカンファレンスを行い状況を把握する。	入院時には、病院側に利用者のホームでの健康状態等、情報提供をしている。入院中も、病院関係者との情報交換や家族の相談を受ける等して、連携関係を深めている。また、それをもとに退院後の施設環境の整備やその後のより良い生活に向けた話し合いを行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアのマニュアルは作成しているが、現在看取りケアはしていない。	入居時に、終末期におけるホームの方針について、重要事項説明書において説明するとともに同意を得ている。重度化した場合、本人、家族、主治医、関係機関等と話し合い、できる限り本人家族の意向に沿うべく、適切な医療機関や他施設等への紹介等の対応を行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成。救急救命の講座も各職員が受講している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練にて避難経路、避難場所の確認。また、地元の消防署に対し当施設の把握の呼びかけ。運営推進会議で消防署の方を招いて講義をして頂いたこともある。土砂災害を想定して利用者様を車で別の施設への避難訓練も実施している。	定期的に避難訓練を実施している。防災ガイドやハザードマップを活用して対策が取られ、地元の消防署の協力体制ができている。また、BCP計画を策定して有事における事業の継続体制を検討している。	今後とも、地震等、様々な災害に備えるべく、緊急事態には、迅速に避難活動ができるよう、地域との協力体制の構築に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを作成。言葉かけ等会議で再確認を行っている。	会議や研修を通じて、利用者の尊厳やプライバシーについて話し合い、学びを深めている。排泄、入浴等の場面ではプライバシー保護に配慮したケアを実践している。利用者が理解できる言葉遣いに努めるとともに、TPOに合わせた声のトーンに留意しつつ、接している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の能力に合わせ、いくつかの選択支を設け自己決定が行えるよう支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活パターンは決まっているが、一人ひとりが自由に生活できるように柔軟に対応している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の用意片付けは利用者様と共にできる事を行っている。出前等を設け味覚・視覚・聴覚と雰囲気を楽しめる食事提供に努めている。15時のおやつは毎回手作りで提供しよう努めている。月1回のパンバイキング、BDメニューも計画し喜んで食べて頂ける様企画している。	食事は利用者それぞれの状況に応じた役割を担ってもらい、利用者とともに調理、盛り付けやテーブル拭き、食後の食器の片づけを行っている。出前食や正月や節句等、季節の行事食を実施しており、職員による洋菓子、羊羹、クッキー等、手作りおやつが好評を得る等、利用者の楽しみにつながっている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は一日のカロリー計算がされており、毎回食事、水分共に摂取量を記録し変化に気をつけ対応している。又、嚥下困難な方には補食としてプリンやヨーグルトの摂取を促している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、毎日義歯洗浄を行い、歯ブラシを利用できない方には口腔スポンジを使用しその方の状態に合わせて対応している。	おやつ前に嚥下体操を午前・午後に行い、利用者の口腔の機能向上に努めている。また、訪問歯科の往診を受けている利用者もいる。義歯の管理にも注意を払っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別記録に排泄時間帯を記録し、個々の状態に合わせ声かけをしている。また、リハビリパンツを使用している方に対しても排泄の声掛けし自立支援に努めている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時声掛けをして午前・午後の入浴の希望があれば、その都度対応している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の主な日課は決まっているが、その日の体調に合わせて声掛けを行っている。夜間帯も定期的に巡回して安心して休んでいただけるよう支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに服薬中の処方箋をファイルし、必要な時に職員が閲覧できる。また、各キッチンには内服薬の詳細(錠数等)がわかるように貼ってある。往診時は往診記録を記入し診察の内容や内服の変更などを記録しスタッフ皆で共有できるよう工夫している。必要に応じ薬剤師にも相談をしている。	薬剤情報は記録で管理し、職員間で利用者の受診や処方の情報共有を行い、薬の用途・副作用の把握に努めている。また、投与手順についてチェックを行い、確実な服薬支援を行っている。薬の情報について、薬剤師から指導を受けたりしている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	様々なレクを取り入れて各自の得意な分野を探りながら支援を行い、本人様の希望に応えられるよう考慮している。日中の役割を各自可能な限り持って生活している。	利用者それぞれの生活スタイルに合わせて趣味活動を支援している。裁縫、ぬり絵、囲碁、将棋、オセロ等、思い思いに行っている。好きなDVDを鑑賞することで、不穏な方も笑顔になり、場が和む場面もあったとのことである。また、利用者は積極的に生活の役割を担っていて、洗濯干しや洗濯たたみ等を手伝ってもらっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地元の方の協力により、区の運動会や町内の福祉フェア、歌謡ショーにも参加させて頂いている。また、外食や出前を定期的に設けランチやモーニング、アフタヌーンティに出かけている。その際には、個々に粥・キザミ食を用意してもらい、席もトイレや入口に近い場所等の配慮をして頂いているが、現在は、外出自粛中。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には各自でお金は所持していない。 現在、外出自粛中。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じて対応している。暑中見舞い・年賀状は毎回手作りで絵はがき風にして郵送している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、居室や共用部分の清掃をし、清潔を保っている。食堂やホールには季節の花を取り入れたり、施設周りには花壇や菜園を設け季節を感じられるように工夫をしている。	家庭的な内装で、天井が高く、リビングも居室も明るい。利用者の作品を掲示し、季節の花を取り入れ、季節感を創出する工夫をしている。また、中庭に花壇や菜園を設け、外出気分を楽しんだり、畑で植物や野菜を育てたり、お茶会等、レクリエーションを通して、気分転換ができています。リビングからの眺めがすばらしく、居心地の良い共用空間となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファを設けゆったりと過ごせるようにしている。庭にはベンチを置き、景色を眺めながら独りの時間も過ごせるように工夫している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたものを持ち込んで頂けるよう入所時にご家族様に声をかけている。配置については、ご家族様と利用者様と相談して決定している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設はすべてバリアフリーに設計。平屋建ての為、各職員も各棟の利用者様の状態を毎日把握できる。廊下・トイレに手すりを設け、安全に移動でき施設内での散歩など安全に行えるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600068		
法人名	株式会社 さくらケアサービス		
事業所名	グループホーム「あいりレー池田」(すずらん棟)		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町藤代698-1		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 9 日	評価結果市町村受理日	令和 7 年 1 月 29 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192600068-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和6年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人ひとりを「自分の家族であればこうしたい」を大切に、緑ある自然豊かな中でゆったりと安心して生活できるように支援しています。コロナ禍以降、いろいろな制限はありましたが、広々とした中庭や施設周辺の散策にて四季を感じながら過ごしていただいています。これからも楽しみを持ちながら日々を穏やかに過ごしていけるよう、職員とご本人様が共に考え、実行していく。そんな生活をしていく場が「あいりレー」でありたいと思っています。生涯において一番大切な時間を共に過ごせる事に喜びを感じながら職員一同暖かい気持ちで日々の生活のお手伝いをさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1人ひとりを「自分の家族であればこうしたい」を大切に、利用者の家族とおなじような介護を提供できるよう意識しながら取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方々に毎月の行事として参加して頂き、地元の方との交流を図っていたが、コロナウイルス感染流行以後、中止している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	あいりレーだよりで毎月の行事予定を報告。サービス内容については、意見をいただき話し合いを通じて反映できるよう取り組んでいます。コロナウイルス流行以後、郵送にて報告している。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば、必要に応じて、町や県、広域連合に相談し情報交換をしている。協力もして頂いている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルの作成や権利擁護推進委員の研修を受講をしたりしてカンファレンスなどで職員への研修も行っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成しカンファレンスなどで職員への研修を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加して内容は把握している。入居者の方で必要な方には活用してもらっている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、ご家族やご本人様とサービス内容や料金、解約方法等の十分な説明を行い、理解納得の上、署名捺印を頂いている。解約時には必要に応じて面談を行う。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内にご意見箱を設け、意見を頂き反映できるように配慮している。運営推進委員会で地域やご家族様の意見を出して頂き運営に反映させていたが、現在はコロナ禍で来訪者を中止している。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個々に面談やカンファレンス、職員会議を行い、勤務状況・意見・改善点等を聞く機会を設けている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	実績や勤務状況により給料水準も再検討し、各自の得意な部分を活かし、意欲的に働けるように努めている。資格取得にも勤務内で行えるように協力している。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修に参加(リモート)し、研修内容等で必要な事は発表を行い、介護の現場に反映させている。他の法人の施設研修も取り入れた事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の法人の施設を訪問する機会を設けたり、施設内での工夫を話し合う場を設けている。各研修への参加、地域ケア会議の出席により、情報交換をしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護の基本姿勢として接しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の状態を把握し、状況に応じて対応を検討している。朝礼、申し送り、引継ぎ等で話し合い、素早く対応できるように心掛けている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成時、職員、ご家族様、本人様から意見を聞き、「今、出来る事は何か」を考え、安心して生活して頂けるような介護計画を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録簿に記入し、皆で共有している。日常生活の中で介護計画に反映していける部分は見直しを行っている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍、外出を中止している。その分、利用者様の要望を取り入れながら、中庭の散歩や園芸などで外に出る機会を多くし、個々の楽しみを見出している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力による行事を企画、手芸・華道・書道クラブ等も計画し、日常生活に楽しみを持てるよう支援しているが、現在コロナ禍でボラの来訪を中止している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご本人様の意見を尊重し、主治医は限定しておらず、各自のかかりつけ医、ご家族様、事務所との連携を持ちながら支援している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院側に施設での健康状態等の情報提供をスムーズに行う。また、入院後は状態把握のために定期的に面会に伺い退院までの状態を把握しておく。退院時には病院側とカンファレンスを行い状況を把握する。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアのマニュアルは作成しているが、現在看取りケアはしていない。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成。救急救命の講座も各職員が受講している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練にて避難経路、避難場所の確認。また、地元の消防署に対し当施設の把握の呼びかけ。運営推進会議で消防署の方を招いて講義をして頂いたこともある。土砂災害を想定して利用者様を車で別の施設への避難訓練も実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを作成。言葉かけ等会議で再確認を行っている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の能力に合わせ、いくつかの選択支を設け自己決定が行えるよう支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活パターンは決まっているが、一人ひとりが自由に生活できるように柔軟に対応している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の用意片付けは利用者様と共にできる事を行っている。出前等を設け味覚・視覚・聴覚と雰囲気を楽しめる食事提供に努めている。15時のおやつは毎回手作りで提供するよう努めている。月1回のパンバイキング、BDメニューも計画し喜んで食べて頂ける様企画している。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は一日のカロリー計算がされており、毎回食事、水分共に摂取量を記録し変化に気をつけ対応している。又、嚥下困難な方には補食としてプリンやヨーグルトの摂取を促している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、毎日義歯洗浄を行い、歯ブラシを利用できない方には口腔スポンジを使用しその方の状態に合わせて対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別記録に排泄時間帯を記録し、個々の状態に合わせ声かけをしている。また、リハビリパンツを使用している方に対しても排泄の声掛けをし自立支援に努めている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時声掛けをして午前・午後の入浴の希望があれば、その都度対応している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の主な日課は決まっているが、その日の体調に合わせて声掛けを行っている。夜間帯も定期的に巡回して安心して休んでいただけるよう支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに服薬中の処方箋をファイルし、必要な時に職員が閲覧できる。また、各キッチンには内服薬の詳細(錠数等)がわかるように貼ってある。往診時は往診記録を記入し診察の内容や内服の変更などを記録しスタッフ皆で共有できるよう工夫している。必要に応じ薬剤師にも相談をしている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	様々なレクを取り入れて各自の得意な分野を探りながら支援を行い、本人様の希望に応えられるよう考慮している。日中の役割を各自可能な限り持って生活している。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地元の方の協力により、区の運動会や町内の福祉フェア、歌謡ショーにも参加させて頂いている。また、外食や出前を定期的に設けランチやモーニング、アフタヌーンティに出かけている。その際には、個々に粥・キザミ食を用意してもらい、席もトイレや入口に近い場所等の配慮をして頂いているが、現在は、外出自粛中。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には各自でお金は所持していない。 現在、外出自粛中。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じて対応している。暑中見舞い・年賀状は毎回手作りで絵はがき風にして郵送している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、居室や共用部分の清掃をし、清潔を保っている。食堂やホールには季節の花を取り入れたり、施設周りには花壇や菜園を設け季節を感じられるように工夫をしている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファを設けゆったりと過ごせるようにしている。庭にはベンチを置き、景色を眺めながら独りの時間も過ごせるように工夫している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたものを持ち込んで頂けるよう入所時にご家族様に声をかけている。配置については、ご家族様と利用者様と相談して決定している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設はすべてバリアフリーに設計。平屋建ての為、各職員も各棟の利用者様の状態を毎日把握できる。廊下・トイレに手すりを設け、安全に移動でき施設内での散歩など安全に行えるよう工夫している。		